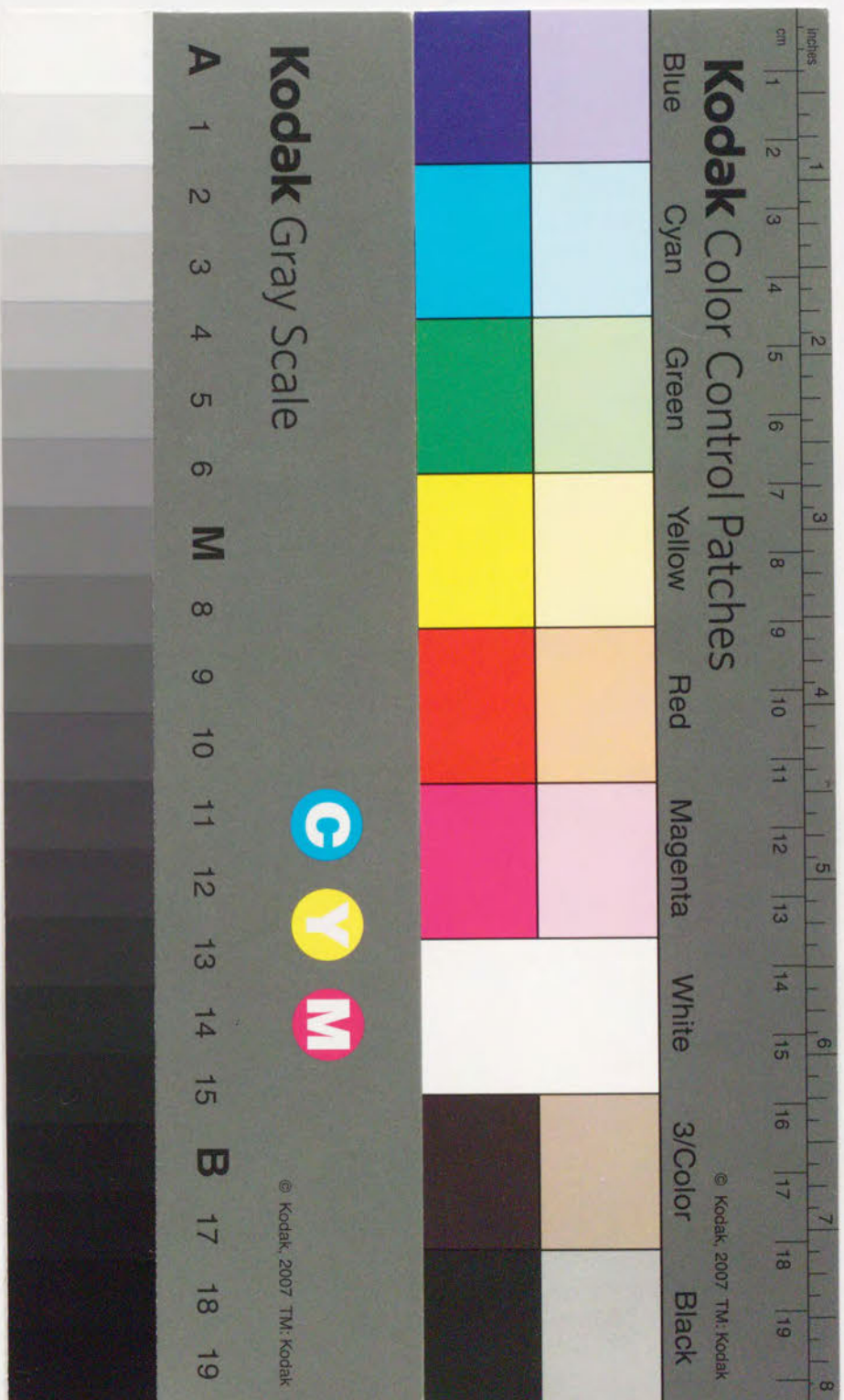




二十四孝記

林家寫本



二十四孝

虞舜ハ野人の子也歴山に耕せりいとけなき時
母にをくれ継母かばましく父かたくなに弟お
これり舜田に往て耕し給ふば象来てたがふ
芸給ふは鳥とだりて芸る誠孝天地とくにか
鬼神を感せしむ帝堯きこし召て賓客の礼を以
て九男の沛子に馳走を命し女御子娥皇女英を
とだして舜の婦妻とし給ひつゝめに天下をゆづ
り給ふ

大舜力を勞し心を尽して仕へ給ふ共父母共

に悦びず田に行不孝の罪を天に仰てなげき
給つり内外のつとも形氣の數に過るを以て
天象鳥に命して其旁にかはらむ父母弟力
を合せて救さむとすさけずおちいらす出入
神のことし帝堯聞しめして聖徳なるを知
給ふ始に賓客とし中比摂政を命し終に宝位
をさづけ給り

漢の文帝ハ高祖第の子に諸侯に封せられて代
王と号す諸臣其仁賢を知てむかひて帝位をさ
づく生母ハ高祖の側室^{そくしやう}之父帝天下を知給て後

薄太后とす帝母に事て至孝に薄太后病る事三
年帝安を忘れず帯をとめす祢むりを忘れそい
ぬることせざ湯薬みつからしめみされはす
めす久しとおこにらす仁孝天下に聞ふ

漢朝ハ高祖にはじむといつとも四百年の基
本ハ文帝の孝に根ざせり。此かた日とて生
^{の支考ハ生との至實に宇宙の理より}せすと云となし天地生との徳これを受て性
命とす万物皆しかり唯人は五行の精氣を得
て明德あり万物にすぐれたる処に明德の感
通孝より先なるをれし

周の曾子名ハ参^{しん}字ハ子輿^{あきか}大賢之孔門道統の宗
に親^しはくつて至孝にあり時山林に入て薪を
とる家客来り母参を思ふて指をうむ曾子
たちも心^{こころ}曾^{そう}つとぬ母の戒を求るを^し知て
いそぎ^{いそぎ}歸りて其故を問母の云急客より吾ゆび
をうんでなんぢをさす

人天地の中居て一氣流通す故に寒暑身は
應^{おこ}唯^{ただ}煩^{わづら}熱^{あつ}の人寒とつとれ瘧疾^{マラリア}の人暑を不
知私欲の一体を^しあづかること熱病^{ネツビョウ}瘧疾^{マラリア}の寒
暑を通^{とお}ぎ^ぎる^る況^{いは}や親子の骨肉を^しけ氣

をつゝ秘^ひて一^い身^{しん}の情^{じやう}身^{しん}は切^きに此故に母ゆび
をうめい子の心^{こころ}たちもあつ痛^{いた}り母子呼吸相
通^{とお}ず孝子の情^{じやう}至^{いた}り

周の関子名ハ損^{しん}字ハ子騫^{けん}賢人にもやく母を
ふれたり父後妻をめとまて二子を生れ実子の
衣服^{いふく}は綿^{わた}をい^いそ^そあ^あつ^つは^は損^{しん}ハ芦^{あし}の
花^{はな}を^しつ^つに^にあ^あつ^つて^てま^まに^に若^わ年^{ねん}寒^{かん}は^はく^くし^し父
車をむ^むり^りむ^むる^るよ^よお^おほ^ほ一^いを^を索^{さく}を^をお^おと^とり^り父そ
の身^みの^のう^うけ^ける^る故^こを^を察^{さつ}して^て継母^{けいぼ}を^を出^ださ^さへ^へと
は損^{しん}これ^{これ}を^を聞^きて^て哀^{あい}て^て云^い母^{はは}い^いも^もは^は我^{われ}ひ^ひと^とま^まさ

一むろいもふも三子共よき里処あり
一んと継母聞て悔改む

芦の穂と綿とすも貧者の服に成人の者ハ
心を用ゝ寒と寒くぬぎ幼少の人ハ甚寒とぬ
えろく一丈已まりくよ者の悪行やくも決所
を失ふハ九情の悦に関子塞く終を恨む継
母去ハ二弟のさむろくと誠思ひて父のい
くまをなむ終に継母の衣を變て慈母と
す其孝れ至りしより知れまた大に孔
門三千の中あり顔子関子と稱せられし事尤

周の仲由字ハ子路孔門の高弟に家貧して常の
産あり藜藿^{しつ}食^く食を親あるが故に古卿と不
出百里の外に米を負て行くといひ父母の養
と親没して後南の方楚國より行くに従車百乘
あり粟を積事萬鍾^{まんしゅう}に稠^{ちゆう}と重て産に賜^{みづ}をばし福
を食をあげて云親のころより米を負兼飯を食
ふと思へり

子路ハ勇心強力の人貧賤に生れて勇力あ
る者ハ多ハその強を用ゝるも無道あるもの
の之を子路ハ其力や父母の孝養に用

有りたゞ力ありてあはれ人なる天質の得たる
所ありて人を欲するめは不用して忠孝の
事に用ひあはれ天下に不治の平の成る子路
のたとふ方歳北師とす

漢乃董永の家ももて貧し父死して葬る物
なし富家は身を賣て錢を借り葬礼をいしめ
りて主家にゆきやりてあはれ人とて途中
に一婦人逢ふて永の妻とていひて
ともな其家にいなり紗羅を織て丈を累て
一月小三百疋こく金に錢をつるはふと及ぶ

主家おとろあてゆき帰り時とてあはれ相逢
所も至る婦人永と辞して去

生る時も身のいしめ死に奉じて妻
子に死する時も身は一生を親となけ
うちて葬をあてり死生共小我身は有るは
て親の物とて至誠天小感は神女来て其身を
つとめやひてこれ艱をまぬるは神明
不測の理仙姫と夫婦する事古今董永一人
の刺子生質篤孝と父母とていかに眼病あり鹿
の乳を得て食はん事を福とて誠を得て

物に然共、水を得て父母の眼疾に癒えし得ず
はつゞきくも、然し所にて鹿の皮を衣て深
山は行鹿のむしりて入て、鹿乳を得て親の供を獵
者鹿と思ひて、子起るとその中つを告
鹿の皮衣て鹿群ふまゝも、人々遠く望て
何やと云ふも鹿近し何とまがしやと云ふ
此も孝感の至神を動し、此故に鹿もさけむ
して乳を乞ふ至誠得く、まゝとを分別せし
小知のおもひと云ふ處に

後漢の江革（江革）といふ人、時父を失ふひと母と

相依り長するふ及て、まゝ孝行也、乳ふ違ひ母
を負て難きの途中盜賊多し、革とおびやか
し、まづ去人といひ老母何とを告ぐ、盜賊と
いつても殺す志ありとて、ゆるせり、下劫（下劫）と云
所まゝつりおとり母子一物あり人の為は日用
をとらえて母を養ひ得る所、此物皆母の衣食と
し、私用あり

江革身の難を忘るゝ母のまゝ所ありとて
然り、此も母のまゝれんとて、やあがり慈母
の子然りと云ふにして、全骸の精神赤子に

るが正親の子と思ふ。和應ある人皆つ
と親を以てよく子に親を以てふくむ敵應
ある故に孩提の思ふ報ずる者多くは

後漢の陸績字公紀年六歳の時九江の袁術は
見ゆ袁術橘を出して兒の前よく績橘二枚を
懷中を歸る及て拜する時地よりおちぬ袁術云
陸郎賓客と成てく物をつとめよするやと
績ひきまつて答ふ我母乃好む物を討て歸て
送くんとを術大に奇なるといふ

六歳の兒三つを食するを忘る母の性

の愛する事思ふからぬ。ゆゑはわが
むらゝ心ありて地は落ぬ貴人といふとい
てとも心は恥る処な故に赤面は及ぶ至
誠大人を感ずる天性教をもつす礼を失す
るをともあれとも礼の本存なり

唐の崔山南の父の母唐夫人姑よくつゝ至孝
に姑は長孫夫人に年高して齒なく唐夫人毎日
髪をかく身衣きく之堂に升りて其姑に乳を
与ふ。姑粒食せざる。数年かきとも堅固に
一日長孫夫人終命の病あり長幼よくつする

時々云言葉に乃づきよめの恩を報するをれ
た子孫の婦も人新婦の孝敬れとくあんと
と成願ふも

老大の姑は乳を飲しめ姑もまじく辞を以て
よめの乳を飲事常の人情を以てそれと共に
心もおとせし事唐夫人姑の老衰をミ
るを児のもく常は食を食しつゝよめに見る至
誠は乳を飲しめ姑も其仁孝を感じて辞を以
老てふゝび児とれる言ハ此姑婦もとし
まゐるとふとも可也凡情の及まん所を何ん

晋の吳猛年八歳親は老くして純孝と家貧し々
れも夏の夜とつても蚊をふとくべし帷帳れ
し夜蚊おかく肌膚おけりも室を膏血を噴吳猛
親のくしきい給てこれと不驅已をくし
に去て親の身おけりもむとを恐る也
よれ常の人を親の旁より事だに中心悦
てなり者ハまけにほと見えてつゝふとよし
と蚊の身をもすハ慈母の愛と云ともあつ
もふとてあつて我身よりつめて親の所
ふやうめとて八歳ハもめて小学

ふ入といへども父母兄長は事るに容儀を習
乃こたえく書を讀むいふ義理は通るつら
らに天性の天明教をまひさるれば良知良能吳
猛はあまて知至し

晋の王祥字は休徵もやく母を失つり繼母朱氏
慈しむに父乃前より祥が不孝をいひて諸をくび
るふれりこれよりあまて愛を父より失ひ天性の
思はるむより母生奠は食をん事哉思ふ時に天
寒して氷あつし求るなまをれ祥衣をぬぎ
氷に臥す氷はあまちとけて双鯉躍り出とるを

くりて母は供す朱氏の思を慰て祥が心もま
た安

嚴寒の厚き氷へ人ふいてづれ落つて衣を
ぬげど身まづこどもぬ氷はふきとも何ぞ解
つと氷をのつと解て鯉出至誠天地を動に
孝感のつとに所也今も至て河水は上一片氷
小卧すのくち生じと晋の王祥天下一人何
り如此乃孝子とびに繼母不孝は事や何ぞと
諺すれも父といへどもこれに信を君子乃諺
を恐る也曾子其賢と母の信あるも三に

ひすれどもどく後人何と思ふや

漢乃郭巨ハ貧者ニ三歳孩笑の児あり巨ハ母此
孫を愛して三つかくれ食をわく子ハ郭巨妻
ハ告て云貧乏あれば母ハ供さる事思ふよりか
も子又母の食を減す此子と埋人とは老く
とて坑と堀と三尺に及て黄金一釜を得り
上ふ記して云天賜郭巨と奉行取事何れと民
奪を成得

祖父母の孫を愛して食ハワくハ常此事也
望いてい凡心ハ幼ある時ハ父母成るハ長

してハ妻子を愛に父母と思ふ事日こにうす
しかるも郭巨ハ親の養ハ害ある為ニ三
歳乃児を土に埋んとし幼少れ時父母と志い
ひて天下ふくづき物なまの心を不失妻又
同心同徳ヤハそむく天下此夫婦乃ち他
故ハ天も古今又なまののり金ハ量れ
名六斗四升也

晋の楊香年十四歳乃時父ハ志くひて田行
父の豊粟を獲む香ハこれをあつむ常に力ハ応し
て父の身を助く時ハ虎出来く父を取て曳去楊

香身幼弱より又手に鉄器ありといへども
父の事を知らず身は事と不知おどりてむ
ひすこゝ双手より虎の頭を搦る虎もおほつた
豊とて香をたれ去父子共小害をまぬれ
り

楊香三つりたよき事哉とてされど虎
も勇猛をもちて去孝感天地神明を動さ古
今武勇のたまれ人といへども或は勇力
をもち或は利刀弓矢をもちみ或は知謀を
もちみ或は身方をもちみ也楊香はすづ

孝のむつと事つと水至愛ふ出さる大勇也
仁者ハ必勇なりとまを成る

宋の朱寿昌ハ妾の子に父の正室を母とて七歳
の時正室寿昌の母を他方より出で嫁に相不知と
と五十年也神宗帝の時ハ官祿をすて秦の地へ
入て生母劉氏を尋ね母をみれば不帰とちふ
終ハ逢ふと得たり時ハ母の年七十餘也

朱壽昌ハ我朝のいふへなハ公家れ正し
武家の代ハハたふ本れりといへば同じ家人を
はつともいふつれや万さること人かはい

さつ々官禄を去てさつ々ぬる此至情世人是
とくさつとく

南齊の庾黔婁はさつ々て爵陵を治む令と成てい
まひ十日なつさつ々父の病を祭する此日時俄に
心おとろふ身汗をさつ々官すてさつ々やさ
家へ歸り醫の云病の輕重をさつ々と思ふ糞
を嘗て苦み可也黔婁これをさつ々て甜し心をれ
さつ々憂て身を以てくさつ々ん事をいぬる父終に
死さる

遠方より病を告る者いまいづさつ々さるふ

もやふ父の病の祭するを知く奉行職を辞し
官禄をさつ々事やふれさつ々アさつ々の如く
かしてすさやかふ古郷へ歸れり糞をさつ々死
りさつ々んと願ふ孝心の至り人情のさつ
いささ処也

周の老萊子ハ至孝れ聞つあり二親ハ奉養する
事其甘美をさつ々む行年七十歳よりして老さる事
をいささ父母の在がさめ也家ハ居る時ハ身ハ
五色のされやう成衣を着嬰児のたつむれを
親のくさつ々なをさつ々時さつ々つさつ々つ

まはるきふれて嬰兒の啼をある双親口をひく
いて笑ふ春風彩衣を動く喜色門内りたり
老萊子父母在時言不稱老乃礼を学ぶ乃こ
に何れ双親子の老を見て心感慨おこり
ん事哉思ふ此故に五色衣嬰兒の戯をなす
り是一日の狂言に非ず平生父母を志す事
三歳の時より異なり父母のこころ又孩提
のころより改む大躰の允情に親は向く貞
心恭敬の氣象有り妻子朋友はたれを
云りひと老萊子に常人より異なり父母は順

なる者なり

漢の蔡順幼少の時父を失ひて孤とれるに
母は事つゝ至孝の時王莽は乱に逢ぬ年又
凶荒を被る母は供給する物なし桑の葉を
煮て器をこめてこれを盛赤眉賊見く怪て其
故を問順が云黒き物に母は奉る赤きものハこ
つゝ食を賊其孝を何れに白米三斗牛蹄
一隻を與ふ

桑の葉の黒き物ハ味甘く赤き物ハ味酸し
り此れを物といふとも至味を母は供ず全

体の精神親の上よりてさつ々味好む
をわすれず此事よかぬ他常行知賊と
いつても父母有り妻子有り孝慈より
も立ちし本心の発見亡き事故其誠
を感有道の代に生れず不義をわする者
より中人の質に習ふと性より後人何そ
恐むらんや

後漢の黄香字ハ文強年九歳の時母を失ふ思慕
してやまぬ里人其孝を称し父ハ事て至孝夏
天炎暑此夕ハ父乃枕とむらん扇を涼ん

し冬月寒天の夜にハ身を以て志す祢の床に
こもむ其他のつとめを可知太守劉護奇なりと
して其孝を表す

九歳の童子躬勤苦を執て子なるの職を尽す
とを教ふれしに父は母を念て父は
痛めり此日ふらび得ず親行てつらに孝
子ハ日頃愛に唯此孝事従容として礼より
る天質乃美也

漢の姜詩母ハ事て至孝之妻乃龐氏姑ハ奉ずる
こと恭謹之母好て江水を飲めり龐氏出く遠く

江中の水を汲く姑はすむ勤学哉とくく
しと頃後又魚乃膾を嗜めり姜詩常ふ生魚哉
求め膾は作る母も隣母を召て共ふ食に舎の
かゝるゝは忽甘泉出味江水は如し日耳双鯉躍
る

姜詩三つゝ母は孝なるものなり妻も
仁ふして誠なり此故よく夫の志は志をか
ひて姑は孝く夫婦家業をはりて衣食をふ
けは貧なりていと苦しき身は志は遠く
江水を汲生魚を求む母は嚴しめて心なふ者

たゞふし隣母までをよび三つゝしと里か
くみて子婦の労をとりて夫婦共にい
とふ心かく母のこれと悦とに至誠天地
をうこく江水鯉魚屋のうたゝに生に古
今此夫婦の事也

魏の王褒親は事して純孝に母存日雷声を怖る
すゞは没して山林の間は葬る雷声伐聞とに疾
風猛雨といへとも墓所は奔て拜跪し泣て告て
云褒とに何りおそく事なれと其心母を
死せりとせは父は司馬昭うと沈は殺さる後晋

天下を一統し王哀終身西に向て座を以て晋の臣
と爲る也

震ハ乾坤乃長男之春夏の時を得て声を發し
これを雷と爲人々雷声を聞て氣血流通し病
滯を消し万物ハ雷声より以て沉滯を散して
長盛を雷よく爲るはざる時ハ五穀豊年な
るは出氣作物を以て此理を知人々愛するを
以て怕る一は王偉元母り怕る一はさ
るの理をさるるを教ふるをさるるを
不可知孝心死生を隔てず

漢乃丁蘭幼少其時父母共失く孤に奉養する
事を得ず其父母の我を生して幼少を思ひ
おもふを以て切也思慕の余り二親の像を
ざりこれより事々事生るが如し其妻久し
くこれをも以て針を以てその指をさせば血
れ出木像蘭を見く眼中涙り蘭其実を知て
妻を去

丁蘭懷哺養育の恩を報ゆる事を恨み二親
の木像を堂上より朝夕生る親乃奉養をか
せり木像を主として終る家主の座を

かゝる蘭ハ木像なる事を忘れて生ふ事あり
とて妻ハ木を以てする故ハ此なるふれを
なす尤像ハ枯る木なれども蘭ハ孝行生る
にたぐふ故ハ生る人の應けり信の歸する
所ハ神あり

晋の孟宗字ハ恭武いふは幼少より父を
めて孤ハ母老て疾篤ハ冬月筆此の竹物を食さ
んを願ふ人力に及ばずといふれも竹林ハ
往て竹を抱て泣き天地を感し須臾に地裂て竹
れ子數莖出たり持てて以て竹物となして

母に奉ず食しおつて疾愈

天乃物をなす春生ハ夏長ハ秋收め冬藏を冬
の閉藏の時ハ当りて盛夏四五月に筆を思ふ
ともいふて得て孟宗常ニ意ハ先づ此旨をこ
ひ親の願として志しつて云事あり筆の得
てふ得へりといふをさるるなりといふれハ無
心にして竹林ハゆく嚴寒ハ筆生ハ孝感の神
物良薬とれり神明不測の理也

宋の黃廷堅山谷と号し元祐中ハ太史の官とな
る性篤孝ハ身富貴なれども母ハ事て其誠を尽

をり毎夕母の溺器を洗い婢妾の事をいひ
なをり栄顯を以て孝性と移さば

を被人卑賤此事は習者ハ士君子は業となし
かゝし身富貴成人ハ小人の如く銭手づら
を以共ニなすも奴事をよくする者ハ徳ハ山
谷富貴よりく臣妾多といつても老母を事て
まづ至情を尽す天性の徳よりて勉強乃
及と云ふはひひ

大舜ハ性命の父母ハ事つたり大孝とする
処ハ父母の舜を殺さんとする者ハ其本心

非ず象ハ殺し得たりと悦ぶものも後來のま
とむに舜の生ておつるを見て心ちおとろ
ふ君哉思ふといひハ過を文り悪哉辨ふ悪
人の常態に然りともいふハ一點の灵明不亡
ハゆつ小兄を愛するの義を知るに此故ハ舜
其灵所在ることを悦びたりなり自己一團の
天理のこゝろ一毫ハ私己なまがゆつふ其
性命を父母と一弟と一て後來の姦惡を見ど
め給ふに惡哉かゝる善をあらざるの至也或
問聖人又ハ不格姦此意ハ舜身を脩め善を行

父母弟を董亟して心ふ恥けり。此其惡を
げしめざるもの哉。云舜何ぞ心けりて父母
弟其惡をててこれをおもひんぐ。此董亟
して故よつた。さるる事と。ぬんや也
し。さるるハ其惡性ハ激して化する事けり。そ
じ父母弟其惡を見とらめ給ふ心ハ少かれ
し董亟すると云ハ他より見ると子とて其
孝を尽し元くるの愛を尽し雞鳴ておぼて終
日善哉なり徳を養ひ身をおもひて父母弟其
其惡をとらめ給ふ心さるる給ハされとも是

を董亟して刑罰ハ落入の大惡をある。ぬん
と。此とつた。さるる處の志なり。此舜ハ此意
ある。さるるに。此舜其をてた。さるるを
此心けり。さるる舜とす。さるるにむ。陽明子
此郷ハ父子訟者なり。陽明子これに。さるる
お。つて云舜ハ是世間大不孝乃子瞽瞍ハこ
れ大慈愛の父也。舜ハ。さるる大不孝此身と
思。つり故ハ能孝に瞽瞍ハ。さるる大慈愛ハ
して赤子より如此養育。成長。さるる今我心
ハ不叶ハ不孝の子。こと思ひて後妻ハ。さるる

ろつさるゝと云ふ不知此故一不慈なりと訟る
者父子手伐取泣く者又云人生の大病ハ一の
傲乃字之子として傲も不孝之臣として傲
も不忠之父として傲も不慈之君として
傲も不仁之友として傲も不信之いふし
への聖賢諸の好人の名譽をるゝ処ハたゞ
一の無我之我なりと則傲之我なりと謙
之謙ハ万善其基百福乃歸する処之傲リハ衆
惡の魁禍災の源之舜の大孝大知一の無我よ
り大徳をるゝ者之問孝經云父有爭子則身

不陷於不義如此なる時ハ非なりは是をるゝ
これとこれといふと云ふと云ふと不見不格
といひ云云惡をかくして善法ありと云ふ
給ふと云ふ共無心自然の争之今もよく相叶
くる父子兄弟ハ常のことと云ふれり云々
れり云々人の相談あり各の意見多し和
すれり云々の事と云ふ也師弟朋友君臣
皆志くり云々多し云々其和を云々
ひと非と云ふ事を知也父母弟ハ不和とい
へども舜ハ孩提乃時の和を不失父母弟乃郷

人びつともれぬ久刑罰におち入つてやう
成惡をなす時ちもとめ此人は非を一旦の心
得ちがひとあかして常れ人の　よりとい
ふとくうして、如此との給ふ成へし其我を
殺さんとすちをも知給ふとくはゆゑに何
の其惡にこれよまうしんあつれとも父の本
心如此なるに我赤子孩提より養育せられて
成長するもの、今我を不悅者、我不孝とか
げふ給ひ終に頑嚚を化して常は歸する処に
董永王祥郭巨孟宗の篤孝のことよ天下各一

九

人之平人凡情の及む処は非ず至誠天は感
して天下古今二つふ神應あり孝子此至情
を清くをる処よとめてハツふぐふやうあし
あつれとも父母よとめてハ或ハ情欲の父母
よりハ或ハ口体の父母を奉養するふ過む
故に天應も又神女をいふ厚氷をとかしめ
魚をいふしめ金をたまひ寒箒を生し給ひ
大舜よとめてハ徳聖人より尊天子より富
四海をたまひ壽百有余歳子孫万々歳乃大福
をいふ明君の諸臣を下知しあふも如此一

事の奉公をぬさんずる者ハそのほゞの賞祿をうまし才徳衆にこころる者ハ高官大祿を命とくもてをなかりたてども百歩の外ハ射^やがてし舜の孝ハ黒星ハ當るが如し他の孝子ハ的ハ當るがてし 焉矢までもゆめさる者の及処ハ非にといへ共目あてとする者ハ黒星ハ故ハ後学れ人も大舜を師とすぬし其天よりたまふ処のあらハ成期すく^くに生て天然性命の父母を奉養して後來の情欲を父母とをば其非ハ目よりくらべし

心よとくむへく^くに惡のどもよハおきくふまづといへともぞとるの苦心至誠を学ぶべし父母平人なりとも好人とれるぬし本より好人なりとも親より師よりなり問董永何を以てり口体を奉養を云喪祭ハ家の有無をあらふ西親の精神を諸乃むれふりこれのよ子れ一生を人やりことなさん何そ親の心ハ心よりこや此一事を以てしれ先祖よりの田宅諸物こそく親の奉養をけりといふなり